

Title	巨大技術災害の及ぼす社会システムへの影響
Sub Title	
Author	岩崎隆(Iwasaki, Takashi) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1990
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1990年度経営学 第738号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0738">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001990-0738</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	岩崎 隆 (東京電力株式会社)	主査	高木 晴夫
		副査	藤枝 省人 奥村 昭博
所属	高木 晴夫 研究室		

## 巨大技術災害の及ぼす社会システムへの影響

現代社会は、さまざまなネットワーク構造によって形成されており、社会それ自体のシステム化によって支えられているといえる。本研究ではそれを、生態型システムと相同の関係にある「社会システム」であると考え、社会システムは、論理階型の異なるミクロ、マクロの2つのレベルのシステムで成り立っているネットワークである。

このような社会システム（マクロ）は、平常時にはその構成要素であるミクロ・システム・レベルのマネジメントによって、全体としての確な意思決定と行動がなされることにより、マクロ・システムの安定状態が維持されている。しかし、社会に未経験の大規模な外圧が及ぶような非常時においては、この限りではない。そのような外圧の典型が「巨大技術災害」であると考えられる。

ひとたび巨大技術災害に直面すると、各々のミクロ・システムはそれに対応するために〔体細胞的制御〕としてのマネジメント行動をとることになるが、それがかえって社会システム全体の不安定さを増幅することがあり得る。

このような事態に際して社会システム（マクロ）が安定を取り戻すためには、マクロ・システム・レベルでの〔遺伝的制御〕の発動が必要になる。〔遺伝的制御〕とは社会システムの中で共有されている〔相互関係〕すなわち価値・規範体系を再構築することで新たな〔文化〕を創造することに他ならない。それを行うことでマクロ・システムは新たな安定状態に移行できると考えられる。そして〔遺伝的制御〕を迅速に行える可能性は、巨大技術と共存していかなければならない現代社会の本質をメタ認識することで、その脆弱性と強靱性を同型視することにあると考えられる。